opusdei.org

『ダヴィンチ・コー ド』 とオプス・デイ

この本を読んで多くの人が神子を読んで多くのとび神子を表の歴史お心を見いた。 はいるではいるに関する情報にいるに関いました。 はいる情報にないまでもいる情報にないまでもいる。 はなくフィクッションではなくフィクッションではなくない。

2004/10/31

本書には、いくつかの重大な誤りが 含まれています。例えば、4世紀に ローマ帝国のコンスタンティヌス大 帝が、政治的な理由からキリストを 神格化し、それを世間に広げたとし ていますが、歴史上の証拠は、新約 聖書や初代教会の著作によって、最 初からキリストの神性が明確に示さ れています。

また、オプス・デイに関する奇妙な描写は全体的にも詳細な点でも間違っています。常識ある人なら、事実無根の荒唐無稽な小説で済まされるデーをもとにオプス・デーであり、本書をもとにオプス・デーであり、本書をもとにオプス・デーであり、その誤りを正さないのはないであり、そのことを正さないのはないであり、そのことがにしようと思りについて明らかにしようと思りについて明らかにしようと思います。

1. 現代社会、第二バチカン公会議とオプス・デイ

この小説では、オプス・デイは保守的で現代社会を敵視し、第二バチカン公会議に反対していたと紹介されま

すが、実際は正反対です。信徒が社会の中で神から呼ばれているとする考えを実践し、公会議の先駆的な立場を担いました。オプス・デイは常に教会の教えを支援し、促進しています。

□ヨハネ・パウロ二世教皇

オプス・デイは、各自が仕事をしている場所で社会の中に踏みとどましい。 生活を聖化することを目指しています。世間で福音の精神を実入します。 で社会を変え、キリスは真に関って社会を償うのです。 で社会を償うのです。 で社会を償うのです。 ではましたもので、 は割に関する神学を先取りしたもので、 がチカン公会議の前後を区別するりました。

(1979年8月27日、オッセルバトーレ・ロマーノ紙)

□エリザベス・フォックス・ジェノヴェーズ教授

オプス・デイは、社会の中で生活や特 に仕事を聖化するという新たな固有 の使命のために働いています。「オ プス・デイーという名称は、はラテン 語で「神の仕事」という意味で、オ プス・デイの根本的な特徴をよく表わ しています。普通の人が、普通の生 活で、どんな仕事でも神に捧げ聖化 できるし、日常生活を聖なるものに 変えることで、自分自身をも聖化で きるのです。オプス・デイのメンバー には、専業主婦、政治家、大学教 授、教師、学校経営者、科学者、 ソーシャル・ワーカー、ビジネスマ ン、OLなど、様々な職業に携わる 人々がいます。 (2004年1月3日、 歴史学会ジャーナル誌)

□教理省長官ジョゼフ・ラッツィン ガー枢機卿

私は、オプス・デイの特徴がよく分かりました。教会の偉大な伝統への素 直な信仰と堅い忠実。これらが、学 問や経済、日常の仕事など、社会の あらゆる課題に立ち向かうことと深 く結び付いています。神と絶え間な く対話し、神と親しく結ばれた人 は、勇敢にこれらの新しい課題に対 応することができます。

(2002年10月6日、オッセルバトーレ・ロマーノ紙)

□平山高明司教

が説かれたときに、初めて信徒の使徒職の視野がぐんと広がったのです。 (2001年6月23日、夙川カトリック教会での説教)

□オプス・デイ創立者、聖ホセマリア・エスクリバー

はっきり言いますが、私の大きな喜びの一つは、第二バチカン公会議が信徒の聖なる召命を高らかに宣言したことです。 (1996年5月16日、フランスFigaro紙)

2. オプス・デイ、教会、社会における女性の役割

この小説では、オプス・デイが社会や教会における女性の立場や役割に関して、否定的あるいは無知な見解を有していることになっているが、実際は次のとおりです。

□ハビエル・エチェバリーア司教 (オプス・デイ属人区長) 社会のあらゆる分野で働くオプス・ディの女性を見て、しばしば神に対応を捧げています。企業、病院、エスをからいます。裁判官、政治家、また、裁判官、政治家、また、芸術家もして事念する主きがいます。いずれも、自分の道をきれいます。で歩み、尊重されるなりに思って歩み、尊重されます。はないます。

(1996年1月21日、チリEl Mercurio 紙のインタビュー)

□聖ホセマリア・エスクリバー

女性も男性と全く同じ人として神の子としての尊厳を持っていますから、当然「平等の権利」を有しています。しかし、この基本的な平等を出発点として各々が達成すべきは、自己に相応しいものであるはずです。(・・・)

社会全体の中で女性が活躍することは、ごく自然で意義深い現象で大きのに、女性がよります。 前に述べたように、女性がよります。 が役割を担う機会になります。 の分野で積極的な役割を担う権利が 認められるべきです。 そして、でで 権利を行使したいと望む女性すべ に、そのために望ましい条件をすべ て整えなければなりません。

(1967年10月「会見記」)

3. 富や権力とオプス・デイ

この小説ではオプス・デイが富や力を狙っているように描写されていますが、現実のオプス・デイとその信者は世界中で人々が信仰を深め、それを日常生活に生かすよう人々を支援自分の置かれた場所で人々との信事を築きながら成長し、いつもの仕事を築きながら成長し、いつもの仕事を通して人々に奉仕し社会に貢献するのです。多くは平凡な市民として

能力を発揮しています。ある者は政治家や経営者として活躍していますが、オプス・デイがそれらに関わることはありません。

□マザー・テレサ列聖請願人ブライ アンM.C.神父

貧困、病気、見捨てられること。聖ホセマリアはこれらを武器としてオプス・デイを前進させる戦いに勝ったのです。オプス・デイの創立者と同じ事がマザー・テレサにも当てはまります。信仰が拠り所であり、働きの土台になっています。その信仰の目で全ての人々の中にキリストを見ていたのです。(2002年2月27日、列聖請願文)

□ルチアーニ枢機卿(ヨハネ・パウロ 1世教皇に選出される1ヶ月前)

オプス・デイは、これまで新聞に大々的に取り上げられてきましたが、しばしばそれらの記事は的外れでし

た。その広がり、人数、所属している人の社会的な地位、これらに惑わされて、オプス・デイを権力の組織や鉄の結束を持つ団体というイメージで見ていました。実際は正反対です。聖なる人を目指し、周囲の人々も聖なる者へと導き、励まし、人々に奉仕し、自由を尊重しています。(1978年7月25日、イタリアGazzettino紙)

□聖ホセマリア・エスクリバー

オプス・デイは地上の活動に権力を持たないし、それを望みません。オプス・デイの唯一の関心事は福音を社会の隅々まで広げることだからです。そして、あらゆる分野の人々が社会での活動を通して神に仕え、神を愛するようになることです。オプス・デイの信者は、いつ、どこにいても、それを追求しています。また、人々にもそれを勧めます。

(1968年5月「会見記」)

□島本要大司教

ホセマリア・エスクリバーは、聖人 になる道を教えてくれました。それ は、一般信徒が修道者のような生活 をすることではなくて、それぞれの 身分に応じて、たとえば父親は父親 として、母親は母親として、教師は 教師として、労働者は労働者とし て、それぞれ自分の果たすべき任務 を忠実に遂行することによって、神 が喜びとされる聖なるもの、正しい 人になるのです。そして、社会人と して、人間として当然果たすべき務 めを果たすことによって、聖なる 者、正しい人となるのです。

(1998年9月26日 浦上カトリック教 会での説教)

4. セクトとオプス・デイ

オプス・デイがカトリック教会の中の セクトであるかのような記述が見ら れるが、オプス・デイは教会の位階組 織に組み込まれた正当な組織です。 1982年11月28日付で「属人区」とし て設置されました(属人区は教区と同 様に司教省の下にあり、修道会等と は別の管轄です)。さらに、オプス・ デイの特徴の一つとして、教皇と教 会の教えに対する忠実が挙げられま す。その全ての信者は、教会の伝統 と習慣を守り実践しています。ま た、他の修道会等と良好な関係を築 き、教会の信仰の多様性を素晴らし いものと考えています。創立者のホ セマリア・エスクリバーは、2002年 10月6日にヨハネ・パウロ二世教皇か ら聖人の位に挙げられました。

□ヨハネ・パウロ二世教皇

私は使徒憲章『ウット・シットUt sit』(1982年11月28日)をもってオプス・デイを属人区として設置しました。このオプス・デイが位階制に属するという本質こそ、司牧的な考察の出発点であり、実際面でさま

ざまに適用していくうえで役に立ち ます。まず、強調しておきたいこと は、第二バチカン公会議が属人区と いう形態を想定するに当たって既に 考えていたように、オプス・デイ信 徒の地方教会および属人区への所属 という事実によって、属人区固有の 使命が地方教会全体の福音宣教義務 に合流している点です。

(2001年3月18日、オッセルバトーレ・ロマーノ紙)

5. 犠牲とオプス・デイ

オプス・デイは教会の一員として、償い、犠牲も含めて教会のあらゆるえを宣べ伝えてきました。イエス苦ロションを受け、その死には自身が望んで、その死によりが受難した。同じようにようによりによりによりによりにある。だからはました。自身に死ぬように合います。だから、教会に犠牲を捧げるように命じています。

す。復活を準備する四旬節には特に 強く勧められ、特定の日には「大 斎 | と言って断食を捧げます。ま た、教会の伝統で、苦行帯や鞭が使 用されました。アッシジの聖フラン シスコ、アビラの聖テレジア、聖イ グナチオ・ロヨラ、聖トマス・モ ア、聖ヨハネ・マリア・ヴィアン ネー、リジューの聖テレーズなど、 聖人たちの多くが活用しました。オ プス・デイでもこれらを活用します が、小説のような誇張したやり方で はありません。また、大きな犠牲よ り、日々の生活や仕事における奉仕 と犠牲の精神が大切にされます。

| 聖書

それから、イエスは皆に言われた。 『わたしについて来たい者は、自分 を捨て、日々、自分の十字架を背 負って、わたしに従いなさい』(ル カ9:23) 今やわたしは、あなたがたのために 苦しむことを喜びとし、キリストの 体である教会のために、キリストの 苦しみの欠けたところを身をもって 満たしています。(コロサイ1:24)

□カトリック教会のカテキズム (1997年)

わたしたちはキリストのいけにえと 結ばれることによって、自分たちの いのちを神へのいけにえとすること ができるのです。(2100番)

完徳への道は十字架を通り越すものです。聖性は、自己放棄と霊的戦いなしには得ることができません。霊的進歩は修行と禁欲とを伴うものであり、それを通して真福八端の平和と喜びのうちに生きるように徐々に導かれていくのです。(2015番)

□ヨハネ・パウロ二世教皇

十字架を抱き締めるとき、それは愛の印となり、完全な自己放棄を示します。十字架を担ってキリストに従うとは、愛の偉大な証を立てキリストと結ばれることです。

(2001年2月14日、世界青年の日 メッセージ)

6. オプス・デイ、真実の姿

□ジョン・メイヤー大司教 (ニューョーク)

疑問は次の点に尽きるでしょう。すでに新旧合わせて多数の修道会が存在しているのにもかかわらず、なぜ神様はオプス・デイを望み、なぜ教会はオプス・デイを属人区にしたのでしょうか?

この「属人区」という名称は専門的な用語に聞こえますが、実際はすごく単純なことです。司教省が出したオプス・デイに関する宣言の中に

「時代が要請する特有の宣教と司牧に教会が敏感に応えた確かな印である」と述べています。属人区の信者は世界に広がる神の民の一部で、ス・ディの使命を帯びています。オプ・ディの場合、家族生活、社会生活、特に仕事を通して聖性を目指すキスト信者の普遍的などです。これが、教会がオプス・ディ属人区に期待している奉仕です。

オプス・デイの仕事は常にパーソナルなりであるです。ある時にあるです。あるものであるです。あるす。私たの霊魂のためである生きが、道を示していますらればいますらればいかをであることを強いないが、に親けることを霊的指導を通してするという。骨の折れることでもありまが、同時に当然のことでもありま

す。母親が幼い子供に対して、職場で同僚や友人に対して、学生がクラスメイトに対して、実践すべきことです。10歳の子供が少年野球のチームメイトに「日曜日にごミサに行こう」と励ますなら、その子はすでにその仕事(オプス・デイ)をしているのです。

このように、オプス・デイの役割は コーチのようなものです。個人的して 指導し助言を与え、づけ、努力しい おりしない おりしない まますでは、カトリーマ おましんが カトリース・デでもない カトリーマ ません。 たません。 たっかません。 たっかません。 たっかません。 たっかません。 たっかまだし、 と望んでいる、 仕えたいと望んです。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/davuinchikodo-toopusudei/(2025/11/22)